

SHIN-KUKI DISASTER NEWS VOL.1



津波



水素爆発後（福島第一原発）



液状化（久喜市栗橋地区）

災害の備えできていますか？

—東日本大震災から10年—当院の取り組み

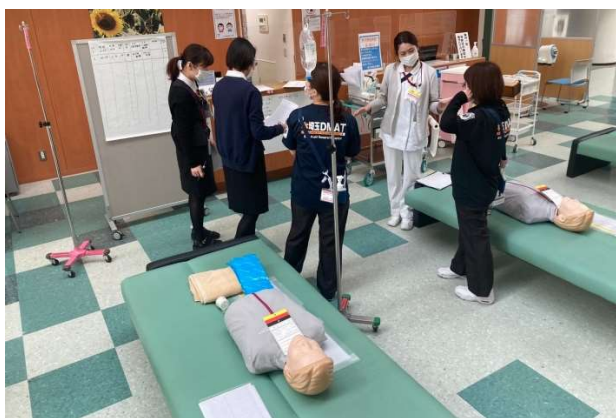


1月9日、志田晴彦院長を災害対策本部長として院内防災訓練を行いました。久喜市が震度6強の地震に被災した想定で多数傷病者の受け入れ訓練をしました。コロナ禍であり、感染対策に留意しながら、被災時の本部・救護活動の運用・指揮命令系統についての基本について確認しました。中段の写真は災害対策本部で陣頭指揮をとる志田本部長です。病院内外の情報を本部に集約し、病院が一体となって活動する必要があります。

皆さん、こんにちは。新久喜総合病院災害対策委員会の景山です。今月から隔月で災害に備えたトピックを紹介していきたいと思います。

今月で、ちょうど東日本大震災から10年になります。直接被災された方、支援に行かれた方、いろいろな経験をされたかと思いますがいかがでしょう。10年たつというのに、全国には4万1千人ものかたが避難生活をされています。

久喜総合病院（現新久喜総合病院）ができたのは震災の3週間後でした。当院は災害拠点病院（埼玉県内に22か所）であり、災害時の医療救護の拠点としての役割が期待されており、DMAT（災害派遣医療チーム Disaster Medical Assistance Team）活動も行っています。病院職員を中心に、地域の皆様のご協力をえて、災害に強い地域・病院となるよう、日々準備していきたいと思っています。その一環として先日おこなわれた、院内防災訓練について紹介します。



多数傷病者受け入れの際には外来ブースのソファも利用してベッドを展開します。上の写真は中等症患者を受け入れる黄エリアです。



なるべくたくさんの方を救うには、重症度に応じて治療の優先順位をつける（トリアージ）必要があります。上の写真は軽傷（緑）エリアです。



最重症者が運ばれる赤エリア（ER）の指揮所です。救命のためには、発災初期に赤エリアに最も医療資源を投入しなければなりません。

皆さんいかがだったでしょうか？今回参加されなかった方も、次回からよろしくお願いします。あるいはその前に本番があるかもしれません。まずは震度5強以上あるいは同等以上の災害発生が明らかな場合は、安全を確認したうえで登院することが望ましいということを記憶しておいてください。

文責 災害対策委員会 景山寛志（発行：令和3年3月8日）